

プラス記事 4%増、ニュートラル・マイナス記事 17%増 トヨタ、中国大手と相次ぎ提携 ヤフー、グループ内再編で順位上昇

7月度のプラス評価は72億9022万円、ニュートラル・マイナス評価は52億6813万円だった。前月と比較するとプラス換算値は4%増、ニュートラル・マイナスは17%増だった。7月は大型の人物コラムでトップが取りあげられた企業のランクインが目立った。また、「商品」の換算値比率が高かった企業も散見された。

1位トヨタ自動車は、昨年9月以来の換算値1億円台にとどまった。中国の大手メーカー比亞迪（BYD）とEVの共同開発で合意したと発表したほか、同国配車サービス最大手の滴滴出行（DiDi）への出資も明らかとなるなど、中国企業との相次ぐ協業が目された。また、東京五輪・パラリンピックに提供するマスコットロボットなど5種を発表し、22日夕刊から23日にかけて全紙で記事化された。7月の同社の「技術」の換算値比率は21%となった。

東京五輪関連では、4位JR東日本も山手線のラッピング電車や来年の開会式までのカウントダウン

時計が東京駅前に設置された話題が各紙で取りあげられた。

6位フェイスブックは2カ月連続で10位以内に入った。デジタル通貨『リブラ』について月末に朝日と読売が解説記事を掲載。読売は「論点スペシャル」で全面を使って取りあげ、「途上国の人などには手軽で安価な決済手段になるとの期待もある」との専門家の意見を掲載した。一方で、安全性や悪用への懸念を紹介した記事も多く、前月に続いて7月もニュートラル換算値のほうが大きかった。

14位ヤフー（日）は3月以来4カ月ぶりのランクイン。読売「e基礎」の『Yahoo!天気』の解説記事が2回の合計で換算値2465万円となった。そのほか、日経「電子版Selection」でソフトバンクグループ内の資本再編の話題が取りあげられ、親会社がソフトバンクグループから通信子会社ソフトバンクに変わることによって事業上の相乗効果を狙うと解説された。この記事1件で1363万円となった。

■プラス記事掲載ランキング

換算値:千円

順位	企業名	換算値	主要な掲載要因
1	トヨタ自動車	189,480	中国BYD社とEVの共同開発、滴滴と合併会社設立を発表。「技術」21%。
2	ツイッター（米）	179,391	読売が21日の参院選に関連したツイート数の分析を特集。
3	ローソン	128,814	日経「未来面」に竹増貞信社長が登場。「社長・会長」85%、「販売」4%。
4	JR東日本	114,091	都市対抗野球関連。東京駅前に五輪までのカウントダウン時計が設置された。
5	ソフトバンクグループ	105,438	日経「未踏に挑む」に孫正義会長兼社長が登場。12兆円規模の新ファンド設立。
6	フェイスブック	94,550	朝日「いちからわかる！」と読売「論点スペシャル」で『リブラ』を解説。
7	華為技術（ファーウェイ）	91,595	2019年1-6月期売上高が前年比23%増。新型スマホをHJが発売。「経営」41%。
8	全日本空輸	87,655	読売「私のエントリーシート」に社員の前田文哉氏が登場。「社員」73%。
9	任天堂	86,744	読売「探せ！ポケモン」の2500回記念特集。『ニンテンドースイッチライト』を発表。
10	ソニー	85,636	新ミラーレスカメラ『α7RIV』を発表。大和証券グループ本社と投資ファンド設立。
11	JR東海	83,230	読売「地球を読む」に葛西敬之名誉会長が寄稿。「役員」39%、「販売」11%。
12	帝国ホテル	81,172	日経「My Story」に東京料理長の杉本雄氏が登場。「社員」87%、「生産」8%。
13	NTT東日本	81,087	読売「就活ON！」に社員の山本将裕氏が登場。ほか都市対抗野球など。
14	ヤフー（日）	80,179	読売「e基礎」で『Yahoo!天気』を解説。ほかソフトバンクG内の資本再編など。
15	パナソニック	74,575	日経の連載「こころの玉手箱」で長榮周作会長を紹介。ほか朝日広告賞など。
16	JR九州	67,560	読売「LEADERS 経営者に聞く」に青柳俊彦社長が登場。「社長・会長」85%。
17	日産自動車	67,481	高速道での手放し運転機能を搭載した『スカイライン』を9月に発売。「商品」47%。
18	セブン-イレブン・ジャパン	67,148	初進出の沖縄県の店舗が開店。大阪の加盟店の時短営業を承認。
19	NEC	66,564	読売「Single Style」でAIロボット『パペロ アイ』を紹介。「商品」39%。
20	日本総合研究所	66,330	読売の参院選特集で翁百合理事長インタビュー。ほか主席研究員の寄稿など。